

⚠ 使用上の注意

ハンマーの全長は頭と柄の取付けを強固にするため、表示寸法と多少の許容差があります。

表示寸法・重量には、多少の許容差があります。

ハンマーの選び方

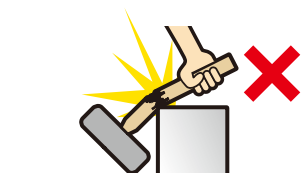
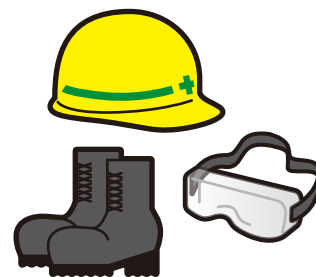
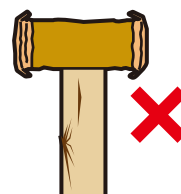
- ハンマーには、多くの種類とサイズがあります。用途と叩く相手によって、目的に応じた商品をお選びください。特に釘を打つ玄能ハンマーや仮杵ハンマー、ネールハンマーなどで硬い物を強打するのは、おやめください。打撃面の欠けや柄抜け、柄折れの原因になります。
- サイズの選定は、小さなハンマーで強打するのは避けて、1サイズ大きなハンマーをお選びください。強打では、打撃点をはずしたり、手からのスッポ抜け、または柄折れや柄抜け、打撃面の欠けなどが起こり危険です。

使用前の点検

- ご使用前には、柄や取り替えヘッドのガタツキ、傷、ひび割れ、クサビの抜けや樹脂グリップの緩み、打撃面のマクレや欠け、割れない事を点検して使用してください。周囲の安全をご確認の上、2・3度の試し打ちをしてください。
- 工場出荷時には木柄は適当な乾燥を施し、ハンマー頭と強固に結合されていますが、店頭での冷暖房や使用状況、保管状態により乾燥が進行して柄にガタツキが生じる事があります。ガタツキがある時は、まず柄を強く打ち込み、次にクサビをハンマー頭の先端まで打ち込んでください。クサビを深く打ち込み過ぎると、柄割れの原因になりますので注意してください。
- 柄に大きな傷やひび割れがある時は、使用を中止し、適合する木柄に取り替えるか、販売店を通じて、当社へ申し付けください。
- グリップにゆるみがある場合は、ハンマーを交換してください。※グラスファイバー柄の場合は柄の交換修理をご依頼ください。
- グラスファイバー柄、プラスチック柄の取り替えは、販売店を通じて当社へ申し付けください。
- 打撃面にマクレや欠けがある場合は、グラインダーなどで充分な面取り(3mm以上のC面)を行って使用してください。金属などを強打するハンマーは特に注意が必要です。
- 打撃面にデコボコや傷がある場合は、滑らかに研磨して使用してください。
- 改造や熱処理を行わないでください。

使用や保管上の注意

- 周囲の安全を確認し、自身も保護メガネやヘルメット、安全靴、その他の防具を着用して、使用してください。
- 硬く焼き入れた物や脆い物を強打してはいけません。ハンマーが欠け飛んだり、相手が飛散して危険です。特にハンマーでハンマーを叩くのはおやめください。
- ハンマーは平面部を叩いてください。角や小さな面を叩きますと、ハンマーが欠け飛んだり、相手が飛散して危険です。
- ハンマーは打撃面の中心でまっすぐ叩いてください。端面や打撃面以外で叩いたり、ナナメ打ちは欠け飛びや打撃面のマクレを起こし危険です。また、ハンマーの寿命を縮めます。
- 打撃時に柄をぶつけないように注意してください。柄折れの原因になります。
- ヘッド取り替え式ハンマーのヘッド取付けロールピンの抜けやヘッドの損傷状態は、使用時にも時々点検してください。
- 柄やヘッドに付いた油や溶剤などはすぐに拭き取ってください。手からのスッポ抜けやスリップ、柄抜けの原因になります。
- ハンマーをテコの代わりに使用しないでください。柄折れの原因になります。
- 高所での作業には落下防止用セーフティコードをご使用ください。
- 高温なものを打撃したり、熱い物の上や高温の場所に置かないでください。柄穴の膨張や木柄の乾燥、接着剤の劣化により柄抜けの原因になります。
- 温度や湿度の高い場所は避けて、安全な場所に保管してください。
- 替ヘッド・交換木柄は、商品に適合した当社純正品を使用してください。



ハンマー

樹脂・ゴム

非鉄・金型用

ステンレス・チタン

鉄工用

溶接用

点検用

钣金用

建築土木用

パール

電気工事用

PXブランド

落下防止コード

グリップテープ

クサビ・木柄

荷締機

ラッシングベルト

タイトロン

タナガード

パレットベルト

レバーホイスト

ワイヤー荷締機

ロープラチェット

吊具

ベルトスリング

ワイヤースリング

チェーンホイスト

電動ホイスト

フック・リング

シャックル

2点・4点吊りスリング

モック

特殊仕様品

油圧ジャッキ

キャスター

中荷重用

重荷重用

軽荷重用

車輪